

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業
分担研究報告書

アトピー性皮膚炎診療ガイドライン：
洗浄スキンケア、漢方治療、入院治療の適応に関する解説文の作成

研究分担者 中原 剛士 九州大学大学院医学研究院体表感知学講座准教授

研究要旨

本研究の目的は、現在二つあるアトピー性皮膚炎診療ガイドラインを統一した新たな診療ガイドラインを作成することにより、アトピー性皮膚炎の診療に携わるさまざまな診療科の医師が使い、すべての年齢層の患者の診療に必要な内容を含むアトピー性皮膚炎診療ガイドラインを作成することにより、アトピー性皮膚炎の診療の均てん化に資することである。

本ガイドラインでは、クリニカルクエスチョンに対する推奨度の設定に加えて、より詳細な情報を使用者に提供してアトピー性皮膚炎の診療に関する理解を深めるため、アトピー性皮膚炎の診療に重要な事項について解説した文章を掲載することにした。そこで、アトピー性皮膚炎の「洗浄スキンケア」「漢方治療」「入院治療の適応」に関して、PubMed や医学中央雑誌などのデータベースを用いて検索した情報や国内外の書籍、総説、現行のガイドラインなどの情報をもとに解説文を作成した。

A. 研究目的

本研究の目的は、現在二つあるアトピー性皮膚炎診療ガイドラインを統一した新たな診療ガイドラインを作成することにより、アトピー性皮膚炎の診療の均てん化に資することである。

B. 研究方法

アトピー性皮膚炎の漢方治療に関して、PubMed や医学中央雑誌などのデータベースを用いて検索した情報や国内外の書籍、総説、現行のガイドラインなどの情報をもとに、洗浄スキンケア、漢方治療、入院治療の適応についての解説文を作成した。作成した文章は、研究班員による議論と推敲を得て、最終版を作成した。

C. 研究結果

洗浄スキンケア

アトピー性皮膚炎における石鹸・洗浄剤の使用の有用性に関する RCT は、石鹸・洗浄剤の使用の有効性自体を検討した RCT は見つからなかった。そこで、委員会で議論を重ね、洗浄のスキンケアで清潔を保つことは基本であるが、バリア機能やそう痒惹起を考慮して湯の温度を熱くしすぎないこと、入浴後できるだけ速やかに保湿を行うことを記載した。また、石鹸・洗浄剤の使用についてもそのメリット・デメリットを考慮し、乾燥が強い症例や部位、季節、あるいは石鹸・洗浄剤による刺激が強い場合には石鹸の使用を最小限とする、逆に脂性肌や脂漏部位、軟膏を毎日塗る部位、皮膚感染症を繰り返す部位には悪化因子回避の目的で石鹸・洗浄剤を積極的に使用することとした。

漢方治療

二重盲検ランダム化比較試験の中で国内の

一般的な皮膚科で処方可能な方剤に関するものは「消風散」と「補中益気湯」を用いた2件のみであった。そこで、現時点では、「アトピー性皮膚炎にはAという方剤」という画一的な処方の有用性は明らかではない。今後は皮疹の性状から方剤を選択することの有用性に関する評価も含め、慎重な検討が必要である。また、甘草を含む方剤による偽アルドステロン症や、補中益気湯による間質性肺炎、肝機能障害、黄疸などの副作用が報告されており、漢方療法は漢方薬に習熟した医師のもとで行うべきと考える、と結論付けた。

入院治療の適応

現行のガイドラインを参考にし、重症例の中には急性増悪の場合と慢性的に重症の皮膚炎が遷延化している場合があり、とくに後者において入院治療の意義が大きい、と考えた。そのような症例に、入院治療により、日常の環境から離れて外用療法を徹底し、時間的余裕の中で患者と治療者の信頼関係を確立し、悪化因子や外用方法、スキンケア方法を見直し、これらの問題を早期に解決することを可能とすることが期待できる、と解説した。さらに今回、重症例に限らず、薬物療法を中心とした治療を適切に継続できず、期待されるほど治療効果があがらないことがしばしばみられるため、中等症に相当する場合にも必要に応じて入院治療を検討することを追記した。

D. 考察

「洗浄スキンケア」「漢方治療」「入院治療の適応」については、あまり多くのRCTによるエビデンスはないが、委員会での議論を通してコンセンサスを得るができ、それを基に実臨床に即した解説文を作成することができた。

E. 結論

アトピー性皮膚炎の「洗浄スキンケア」「漢

方治療」「入院治療の適応」について解説する文章を作成した。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

<論文発表>

1. 中原剛士 安全で効果的なステロイド療法 ステロイド療法の効果的な使い方 皮膚疾患 臨牀と研究 94(7): 832-836, 2017.
2. 中原剛士 病気について知りたい! 臨牀講座 小児のアトピー性皮膚炎 Pharma Tribune vol.9 No.8 5-10, 2017
3. Nakahara T, Kido-Nakahara M, Ohno F, Ulzii D, Chiba T, Tsuji G, Furue M. The pruritogenic mediator endothelin-1 shifts the dendritic cell-T-cell response toward Th17/Th1 polarization. Allergy. 2018 73(2):511-515.
4. Tsuji G, Hashimoto-Hachiya A, Kiyomatsu-Oda M, Takemura M, Ohno F, Ito T, Morino-Koga S, Mitoma C, Nakahara T, Uchi H, Furue M. Aryl hydrocarbon receptor activation restores filaggrin expression via OVOL1 in atopic dermatitis. Cell Death Dis. 2017 Jul 13;8(7):e2931. doi: 10.1038/cddis.2017.322.
5. Yasukochi Y, Kido-Nakahara M, Nakahara T, Kuroki R, Koga T, Mashino T, Kurihara Y, Furue M. Clinical bandings of Patient-Oriented Eczema Measure scores among Japanese patients with atopic eczema. Br J Dermatol. 2017 Nov;177(5):e211-e212. doi: 10.1111/bjd.15599.
6. Uryu M, Kido-Nakahara M, Nakahara T, Chiba T, Furue M. Epidermal p16INK4a

- expression is more frequently and intensely upregulated in lichen planus than in eczema, psoriasis, drug eruption and graft-versus-host disease. *J Dermatol*. 2017 Mar;44(3):343-344. doi: 10.1111/1346-8138.13581.
7. Itoh E, Nakahara T, Murata M, Ito T, Onozuka D, Furumura M, Hagihara A, Furue M. Chronic spontaneous urticaria: Implications of subcutaneous inflammatory cell infiltration in an intractable clinical course. *J Allergy Clin Immunol*. 2017 139(1):363-366.
 8. Nakahara T, Morimoto H, Murakami N, Furue M. Mechanistic insights on topical tacrolimus for the treatment of atopic dermatitis. *Pediatr Allergy Immunol*. 2017 Dec 4. doi: 10.1111/pai.12842. doi: 10.1016/j.alit.2018.01.004.
 9. Furue M, Kadono T, Tsuji G, Nakahara T. Topical E6005/RVT-501, a novel phosphodiesterase 4 inhibitor, for the treatment of atopic dermatitis. *Expert Opin Investig Drugs*. 2017 Dec;26(12):1403-1408. doi: 10.1080/13543784.2017.1397626.
 10. Furue M, Yamamura K, Kido-Nakahara M, Nakahara T, Fukui Y. Emerging role of interleukin-31 and interleukin-31 receptor in pruritus in atopic dermatitis. *Allergy*. 2017 Jul 3. doi: 10.1111/all.13239
 11. Furue M, Chiba T, Tsuji G, Ulzii D, Kido-Nakahara M, Nakahara T, Kadono T. Atopic dermatitis: immune deviation, barrier dysfunction, IgE autoreactivity and new therapies. *Allergol Int*. 2017 Jul;66(3):398-403. doi: 10.1016/j.alit.2016.12.002.
 12. Nakahara T. Clinical questions: Lifestyle of Japan and atopic dermatitis Evolution of Atopic Dermatitis in the 21st Century, Springer Nature, P. 369-381, 2017.
- <学会発表>
1. 中原剛土 福家辰樹 川田康介 室田浩之 荒川浩一 片山一朗 小児アトピー性皮膚炎の治療ゴールに関する医師への意識調査 第116回 日本皮膚科学会総会
 2. 中原剛土 古江増隆 IgE 報告 50周年記念シンポジウム IgE とアトピー性皮膚炎 第80回日本皮膚科学会東京支部総会 2017年2月12日
 3. 中原剛土 皮膚科領域における抗ヒスタミン薬の臨床的評価とその効果的な使い方 日本皮膚科学会第220回熊本地方会 2017年3月4日
 4. 中原剛土 古江増隆 特別講演 アトピー性皮膚炎の本質に迫る 第20回記念日本獣医皮膚科学会学術大会・総会 2017年3月12日
 5. 中原剛土 アトピー性皮膚炎の外用療法 ~アトピー性皮膚炎診療ガイドラインより~ 第33回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会 2017年4月23日
 6. 中原剛土 皮膚疾患に対する抗ヒスタミン薬の効果的な使い方 第47回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会学術大会 2017年12月9日
 7. 中原剛土 アトピー性皮膚炎のスキンケア 第4回総合アレルギー講習会 2017年12月17日
 8. 中原剛土 古江増隆 アトピー性皮膚炎の病態と治療、新規治療法も含めて 第25回九州アレルギー講習会 2017年2月17日 福岡

9. 中原剛土 アトピー性皮膚炎 第 23 回
アレルギー週間記念講演会 2017 年 2
月 18 日 福岡
10. 中原剛土 アトピー性皮膚炎における
適切な保湿と抗炎症外用療法 大分市小
児科医会講演会 2017 年 2 月 22 日

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定も含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他